

総社市生活困窮支援センター事業説明会

平成27年2月4日(水)

総社市生活困窮支援センター の取り組みについて



社会福祉法人 総社市社会福祉協議会

総社市生活困窮支援センター



総社市のモデル事業実施までの経過

H18年

- 地域活動支援センター I 型受託

H21年

- 障がい者基幹相談支援センター受託

H24年

- 障がい者千人雇用センター受託

H25年

- 権利擁護センター受託

H26年

- 生活困窮者自立促進支援モデル事業受託



横断的な総合相談窓口の確立

「横断的な総合相談窓口の確立」

権利擁護センター

生活困窮支援センター

障がい者基幹相談支援センター

◆課題のある方への総合相談支援事業
(個を支える相談支援事業)

障がい者千人雇用センター



生活困窮者支援・・・ 総社市社協では

このような相談に対応・・・



- 生活保護を断られた(受けたくない)・・・
- 生活費がない(食べるものがない)・・・
- 電気やガスが止まる・・・
- 仕事を失い、住むところがない・・・
- 借金や家賃等の滞納が多くて困っている・・・



- ご近所(地域)との関わりがない・・・
- 親や親せきに相談できない・・・
- ひとり暮らしで不安・・・
→孤立死
- ゴミ屋敷で困っている・・・



●8050問題の世帯

例) 母親は認知症／娘はひきこもり

80歳の要介護高齢者を、50歳の無職の子が介護している状態で、現在は親の年金で子も生活ができているが、親が亡き後、息子が無収入の高齢者となり、行きつく先が生活保護被保護者になってしまうという問題。



「総合相談の窓口」「地域づくり」



- ① 経済的困窮
- ② 社会的孤立
- ③ 複合的課題
- ④ 制度の狭間



従来からの**地域** ↔ **福祉活動を活かした**



【誰もが安心して豊かに暮らせる地域づくり】

- ・個別支援活動
- ・地域福祉活動
- ・早期発見、早期対応の仕組み
- ・ネットワークの開発と活用



地域・専門機関や団体と協働してネットワークを形成し、個々のケースに対応していく手法こそ

「社協(コミュニティソーシャルワーク)の実践」



地域福祉活動と個別支援活動の融合

個を支える地域づくり

- ・地区社協活動
- ・福祉委員活動
- ・ふれあいサロン活動
- ・ボランティアセンター



個を支える相談支援

- ・日常生活自立支援事業
- ・法人後見事業
- ・障がい者基幹相談支援センター
- ・障がい者千人雇用センター
- ・権利擁護センター
- ・生活困窮支援センター

「だれもが安心して豊かに暮らせる まちづくり」
の実現

総社市のモデル事業実施までの経過

■ 先進地への視察(岡山市・丸亀市・その他情報収集)

■ 福祉課(担当主管課)との検討会開催



◆ 総社市生活困窮支援センターの設置

(受託) 平成26年4月1日

(開設) 平成26年7月1日

(目的) 「横断的な総合相談窓口の確立」

- ・生活困窮対象者への寄り添い支援
- ・権利擁護センターと一体的に取り組む

総社市の特長

「総社市生活困窮支援センター」開設

平成26年7月1日(火)



■平成26年4月から「総社市生活困窮支援センター」は総社市社会福祉協議会が受託して実施しています。

総社市 生活困窮支援センター開設

就労、家計相談応じます

総社市は1日、来年4月の生活困窮者自立支援法施行に備え、同市中央の市総合福祉センター内に「生活困窮支援センター」を開設した。就労や家計の相談に応じ、生活保護の支給に至る前に自立を促す。秋には岡山大生の協力を得て、生活困窮世帯の中学生の学習支援にも乗り出す予定だ。

生活困窮支援センター
総社市権利擁護センター
障がい者4人雇用センター

今秋から 岡山大生 学習でも協力

センターは、市の委託を受けて市社会福祉協議会が運営。常勤4人と非常勤2人（センター長、弁護士）の計6人が配置され、職探しに同行したり、生活費の計画的な利用を助言する。民生委員や福祉施設の職員を対象に弁護士による法律勉強会も開く。

幅広い観点から支援ニーズを掘り起こすため、いずれも同センターに併設している「権利擁護センター」（高齢者や児童の虐待などに対応）、「障がい者千人雇用センター」と情報を共有したり、民生委員や児童委員との連携を図る。

学生による学習支援は10月から毎週2回、夜間に実施予定。岡山大の1、2年生が指導し、進路の相談にも応じる。

この日は開所式があり、片岡聡一市長が看板を掲げ、「弱者支援に一層力を入れる」と強調した。協議会の風早晃源会長は三つのセンターの連携を訴え、「互いに相談内容をつなげて対応していく」と述べた。

制度実施に向けたモデル事業で、県内では岡山市が2013年度に「寄り添いサポートセンター」を開設している。（森元俊一朗）

2014年7月2日(水) 山陽新聞

「総社市生活困窮支援センター」



対象者と主な業務



【対象者】 ※原則

生活に困窮している方または、
生活困窮状態に陥る可能性
のある方

- ①原則65歳未満の方
- ②障がいのない方
- ③生活保護制度から脱却した
方または、生活保護制度の
要件に該当しない方
- ④他の制度で支援を受けるこ
とができない方
- ⑤その他、複合的な問題(経
済的、精神的、家庭、健康上
など)を抱えている方

自立相談 支援事業 (必須)

- 相談者の**包括的な相談受付**
- プラン策定による支援
- 適切な社会資源へつなぐ

家計相談支 援事業 (任意)

- 相談者の「**家計の見える化**」
を図る
- 家計簿の作成
- 債務等の整理

学習支援 事業 (任意)

- **貧困の連鎖**を防止
- 参加者の**居場所づくり**や**学習
機会**の提供

総社市における自立相談支援機関の内容と流れ

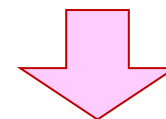


生活・家計・
就労等に関する悩み…

①相談・課題の整理・プラン作成



②支援調整会議(プランの確定)



③プラン達成に向けた支援
(家計・就労・生活など)



④プランの診断・評価
(再プラン)



第**一**歩!



⑤プラン(目標)の達成

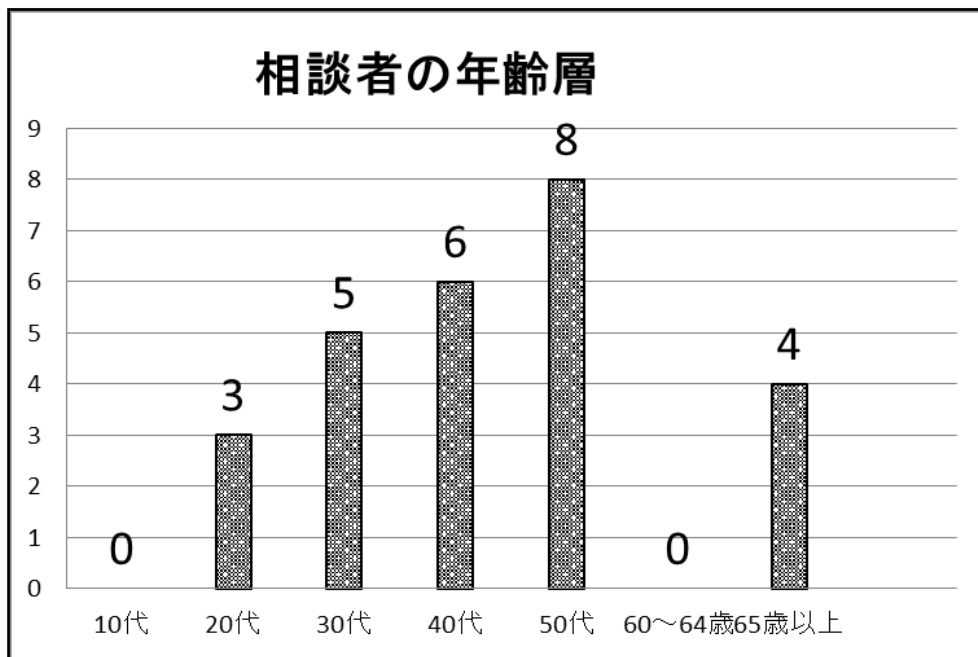


相談支援実績(H26.4～H26.12)



(1) 相談支援数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成26年度	実数	4	7	8	16	18	20	21	23	26	26
	延数	8	33	81	110	240	132	164	151	122	1,041



- 20代: 3人
- 30代: 5人
- 40代: 6人
- 50代: 8人
- 65歳以上: 4人

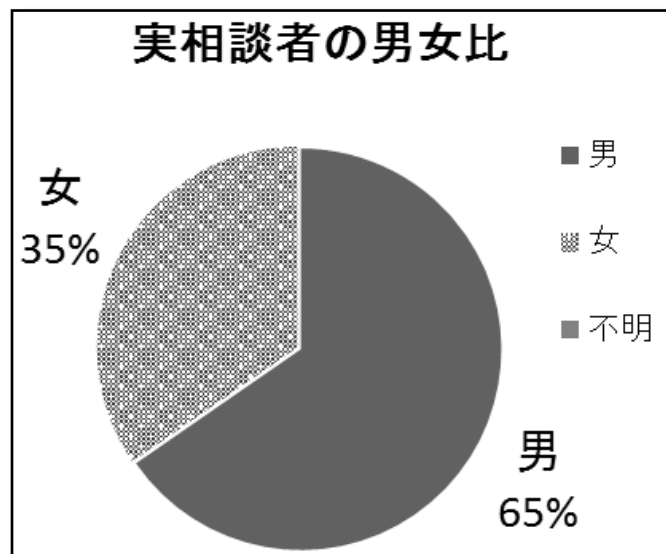


相談支援実績(H26.4~H26.12)

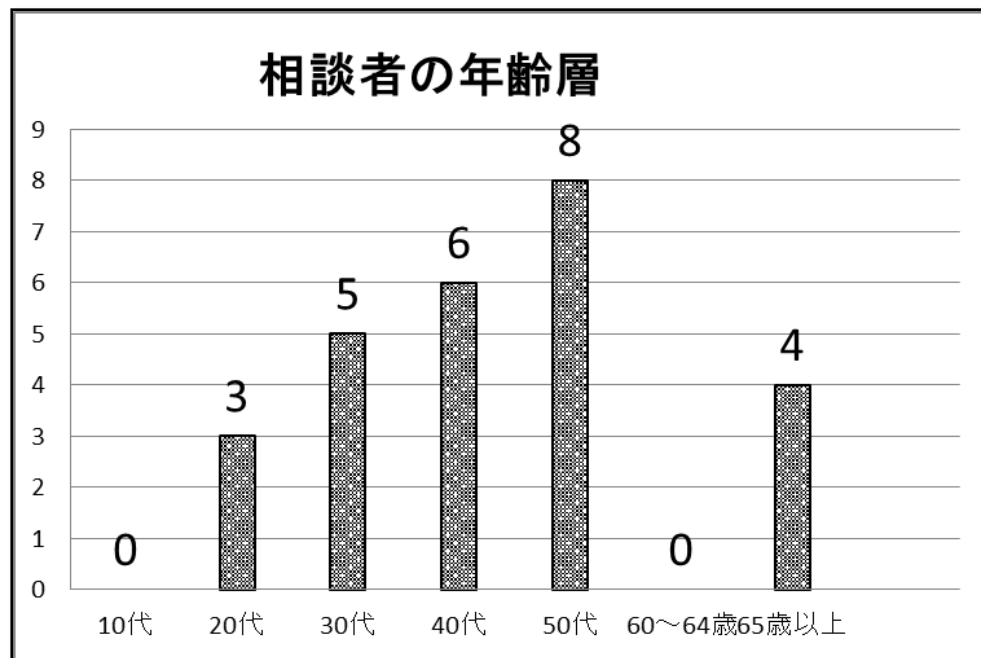


(2) 性別

男性17人／女性9人



(3) 相談者の年齢層

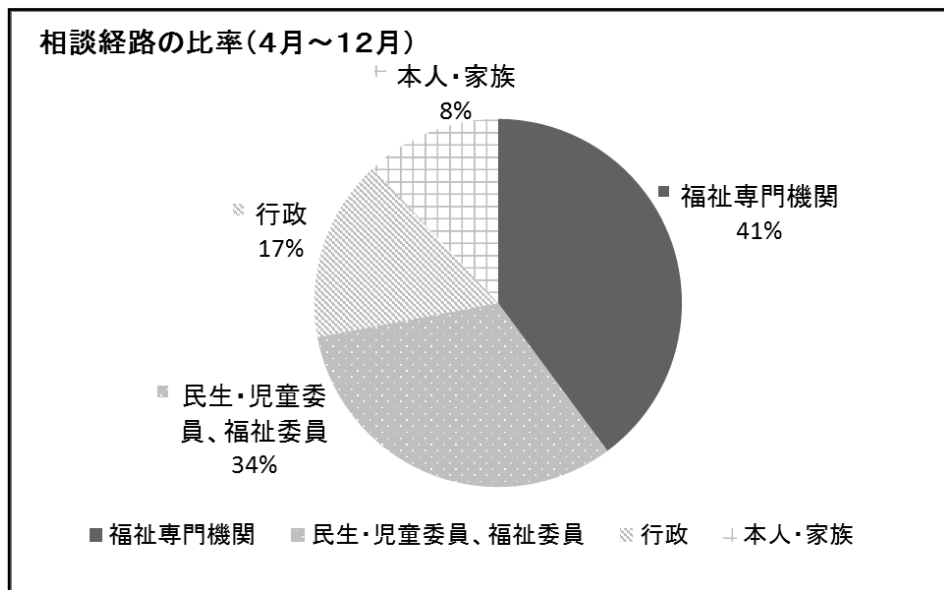


- 20代: 3人
- 30代: 5人
- 40代: 6人
- 50代: 8人
- 65歳以上: 4人



相談支援実績(H26.4～H26.12)

(4) 相談経路

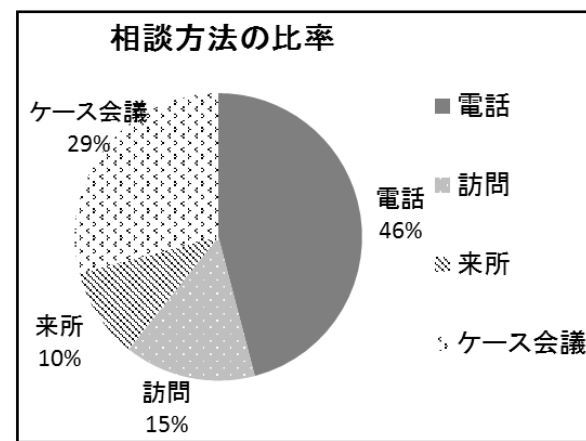


- ・福祉専門機関: 41%
- ・民生委員児童委員、福祉委員: 34%
- ・行政: 17%
- ・本人、家族: 8%



(5) 相談方法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
電話	3	8	40	60	187	44	71	34	31	478
訪問	4	23	35	13	29	17	16	8	9	154
来所	1	2	2	25	18	13	19	14	12	106
ケース会議	0	0	4	12	6	58	58	95	70	303
計	8	33	81	110	240	132	164	151	122	1,041





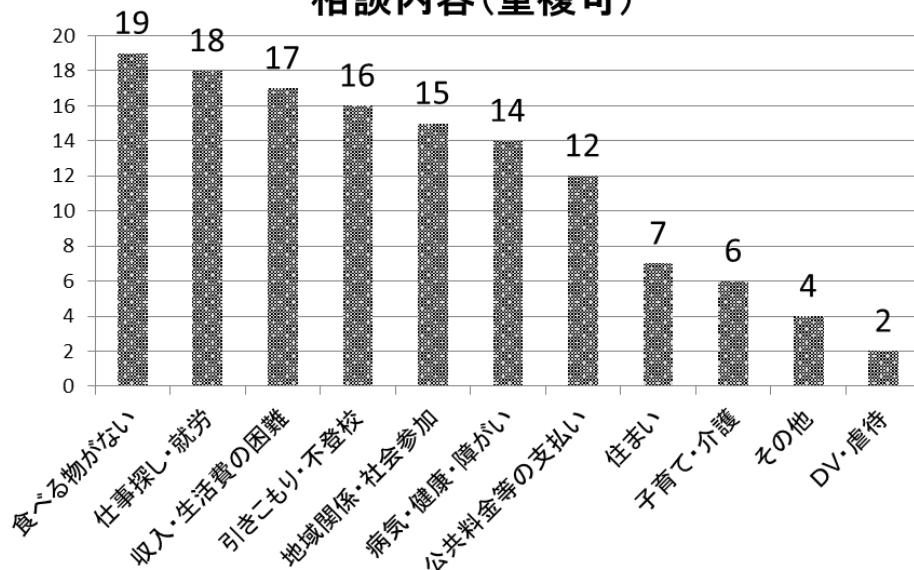
相談支援実績(H26.4～H26.12)

(6) 相談内容(複数回答)



食べる物がない	19件	公共料金等の支払い	12件
仕事探し・就労	18件	住まい	7件
収入・生活費の困難	17件	子育て・介護	6件
引きこもり・不登校	16件	その他	4件
地域関係・社会参加	15件	DV・虐待	2件
病気・健康・障がい	14件		

相談内容(重複可)



相談支援からの気づき

- 8050問題／若年齢層のひきこもり
- 複合的な課題を抱えている世帯
- ひとつの機関が踏ん張ることには限界がある
- 制度の狭間がある
- 民生委員や福祉委員も悩んでいる
- なかなかSOSが出せない



◆ 自立 **支援** につながる

アイテム や **資源** がない...

相談支援を行うなかで・・・

【支援アイテム その①】



食料品の提供
(お米・非常食品)

【緊急支援】

- 当面の食料確保
- 相談へつなぐ食料支援



相談支援を行うなかで・・・

【支援アイテム その②】



緑のカーテン

(ゴーヤ・かぼちゃ・きゅうり・自給自足)



相談支援を行うなかで...

【支援アイテム その③】



生活用品・スーツ等の寄付
(市民一人ひとりの理解)



相談支援を行うなかで・・・

【支援アイテム その④】



支援ネットワークの力

【他機関との連携】

- 民生委員、福祉委員
- 地区社協
- 地域包括支援センター
- ハローワーク
- フードバンク岡山
- ケアマネジャー
- 地域の商店
- ホームレス支援きずな
- 岡山大学
- 弁護士
- 岡山市寄り添いサポートセンター
- 行政
- 総社市社会福祉協議会
- 障がい者基幹相談支援センター
- 障がい者千人雇用センター
- 権利擁護センター など



事例 (認知症の母と精神障がいの娘)

—認知症の母(88歳)

- 裕福な家庭で過ごす
- 社協とは10数年来の関わりがある
- 緊急援護資金の貸付(借金、金銭管理、買い物)
- 娘を溺愛⇒娘のいいなり
- 体調不良



—精神障がいの娘(58歳)

- 約30年間ひきこもっている
- 市の保健師も会えない
- 受診も不十分
- 生活費含めすべて母親が行っている
- 買い物が大好き(通信販売)



「支援調整会議の開催」



○対応（役割分担と連携）

－ 認知症の母（88歳）

- ・ 金銭管理が困難 ⇒ 日常生活自立支援事業の導入【社協】
- ・ ADLの低下、認知症の進行【地域包括支援センター】
⇒ 受診
⇒ 介護保険制度の利用（介護保険料滞納）
- ・ 生活環境を整える【連携】



－ 精神障がい（統合失調症）の娘（58歳）

- ・ 本人と話す、受診を促す【健康づくり課 保健師】
- ・ 家計や買い物、掃除等、生活リズムを整えるサポート【生活困窮支援センター】
- ・ 障害福祉サービスのホームヘルパーの利用
【市保健師、障がい者基幹相談支援センター・居宅介護事業所】
- ・ 生活環境を整える【連携】



－ 役割分担

- ・ 母・・・介護保険課・地域包括支援センター・日常生活自立支援事業
- ・ 娘・・・健康づくり課・障がい者基幹相談支援センター・居宅介護事業所
・ 生活困窮支援センター
- ・ 緊急対応・・・病院・福祉課・健康づくり課・生活困窮支援センター など



非常用保存食のアンケート

【みなさんの声をお聞かせください】
震災以降、私たちの身近な地域でも多くの災害が発生しており、「防災」が意識されています。そこで、平時から防災無備の悔しに気づいた
非常用防災グッズの事前準備をおすすめしています。
非常用保存食をに試食いただいた皆様からのご意見やご感想をお聞き
かしていただきたいと願います。アンケートへのご協力よろしくお

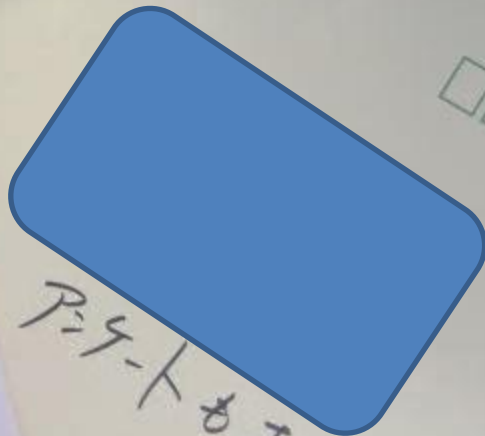
- 40歳代 □ 50歳代 □ 60歳代 □ 70歳以上
- いただいたメニューを教えてください □ ドライカレー □ エビピラフ
- 大豆ひきご飯 □ 美味しくないと回答がない □ 美味しくないと回答がない

【問3】お味に満足していますか？
□ とても美味しい □ 美味しい □ 普通 □ 美味しくないと回答がない □ 美味しくないと回答がない

【問4】ご自宅ですべて非常用防災グッズを準備していますか？
□ 準備している □ 準備を考えている □ 準備していない □ 準備を考えていない

【問5】日常生活の中で痛みや不便に感じられていることなどはありますか？
□ はい □ いいえ

訪問時のきっかけづくり！



アンケートもお願いしよ

部屋中に……

←トイレはここ！



ゴミが、減っていきます！



A photograph of a cluttered kitchen. On the left is a tall, white refrigerator with significant rust on its lower half. To the right is a stainless steel sink with a faucet. The countertop is covered with various items, including a red box, a pink brush, and some plastic bags. Below the counter are wooden cabinets. In the background, there are more cabinets, a microwave, and a stack of white boxes. A large piece of cardboard is on the floor in the center.

台所らしくなりました。
通路ができました。

まだ、このような状態・・・

寝室にふんが・・・



「支援調整会議の開催」





公的サービスの導入



日常生活への第一歩！

■生活環境の整備はあくまで第一歩！

【地域とのつながりがない世帯・・・】

【結局、孤立状態が続くだけ・・・】

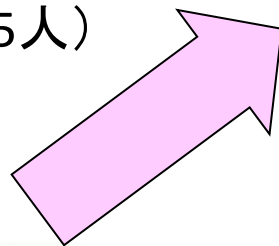
■小地域ケア会議に投げかけてみよう！



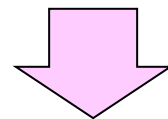
生活困窮者支援を通じた地域づくり

(町内会の現状)

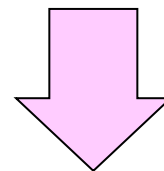
- ・世帯:145
- ・人口:220人(男性:85人/女性:135人)
- ・高齢化率:**44.8%**
- ・生活保護世帯:22世帯(15%)



町内会で検討



- ・福祉委員が6名誕生！
- ・給食サービスの配食が再スタート(地区社協で実施)



ミニケア会議の開催



- ・この町内には民生委員がない
- ・〇〇な方もいる！高齢化も心配・・・
- ・何とかしないと！

生活困窮者支援を通じた地域づくり 町内ミニケア会議の開催

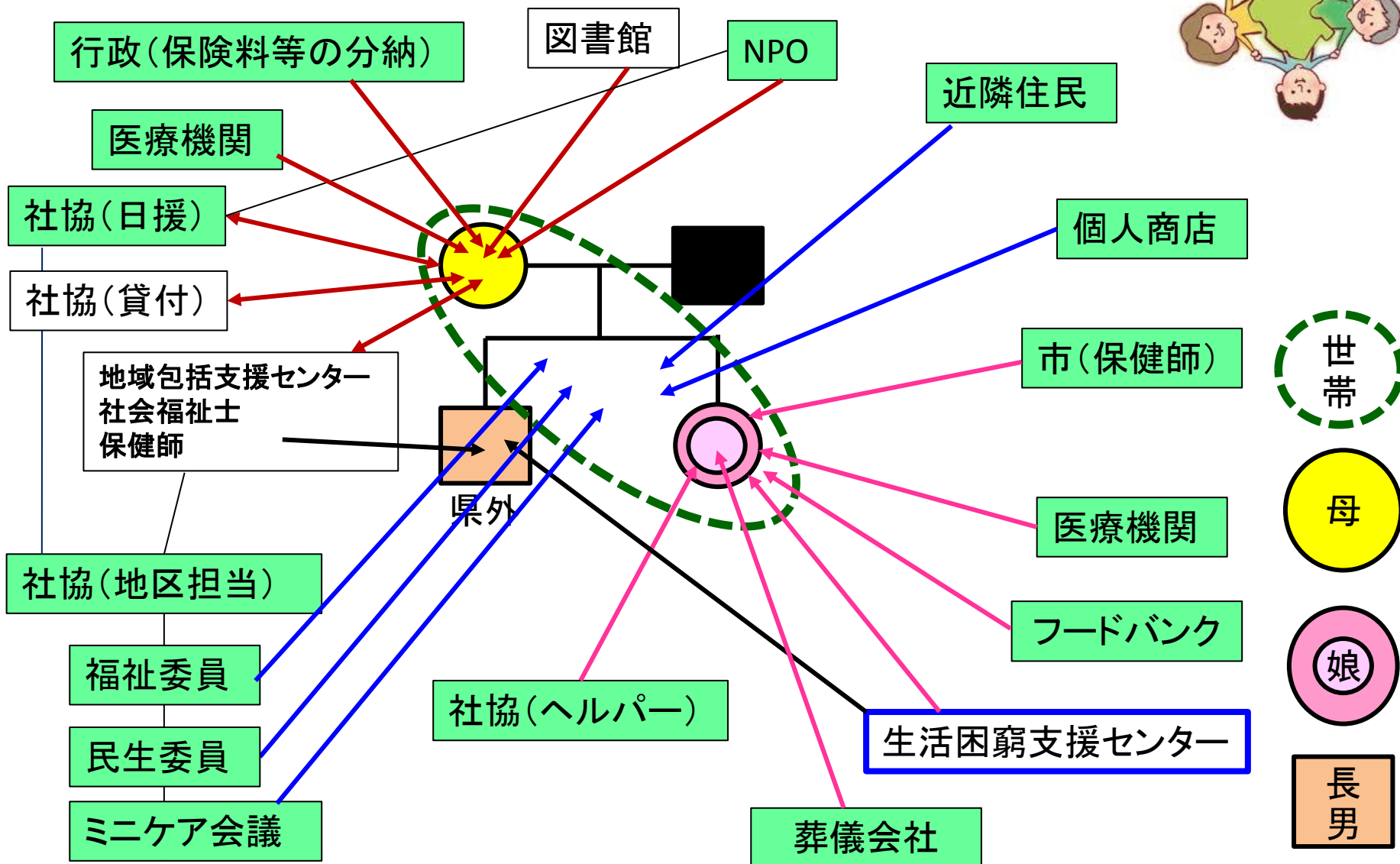
- 開催: 2か月に1回
- 内容: ①町内に住んでいる方についての検討
②会議で検討した方について状況を確認
③状況に応じて社会資源へつなぐ
④新たなニーズの発見！！
- 成果: ★民生委員児童委員の誕生！
 - 福祉委員活動の充実！
 - ニーズキャッチ機能と連携！





生活困窮者支援について考える

事例 (社会資源の広がり)





今回の事例を通して・・・

①相談者への対応

- 地域に多くの**キーパーソン**を増やす
- 対象者の生活課題一つひとつに対応する
- 関係機関等の連携、ネットワーク



②地域への投げかけ

- 地域の課題として**考え、意識化**を図る
- 地域を見守る新たな**社会資源の開発**

③ケース発生の予防

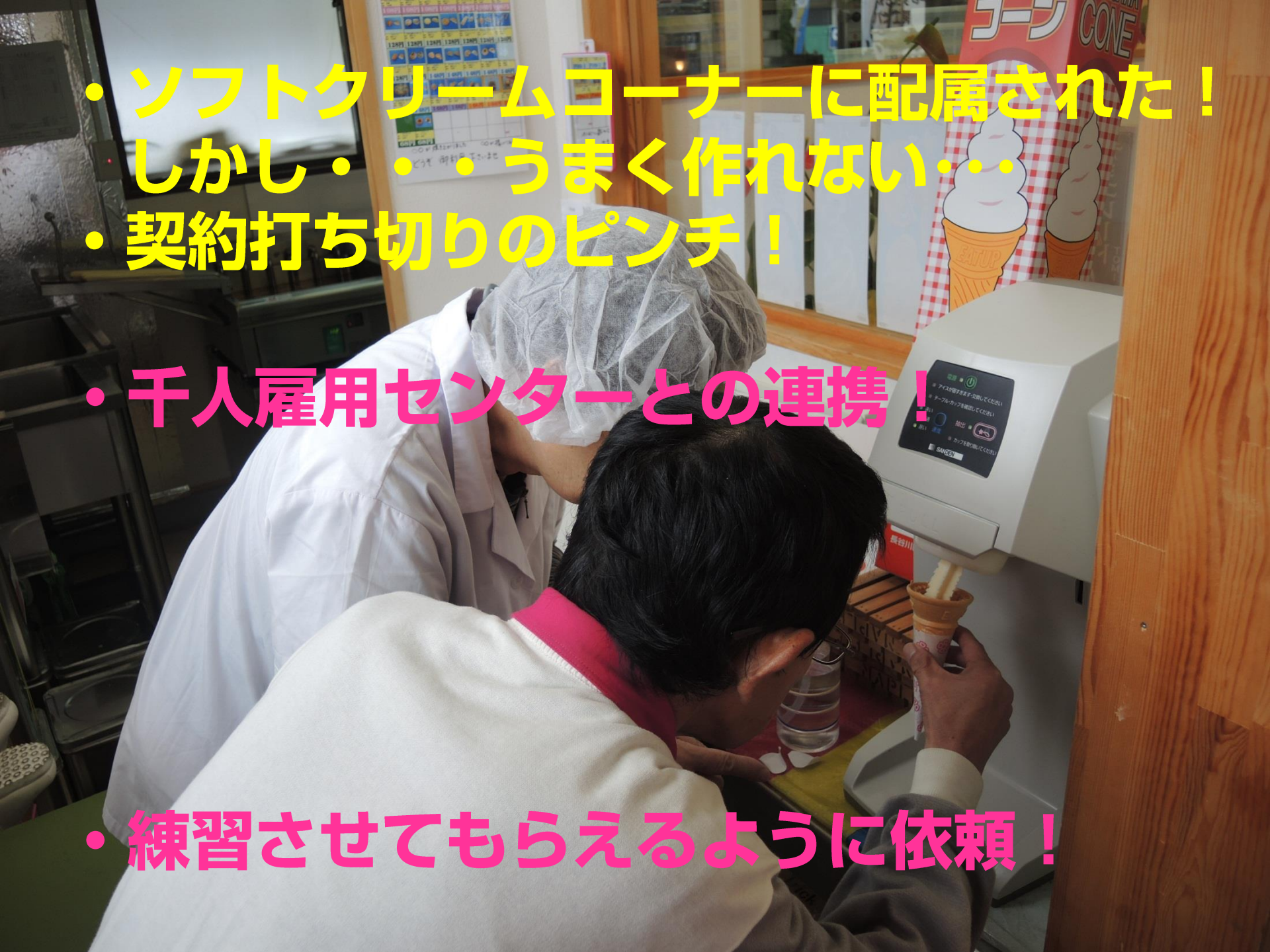
- ニーズを**早期発見・早期対応**するシステムの構築
- 気軽に相談できる**関係づくり**



- ソフトクリームコーナーに配属された！
- しかし・・・うまく作れない・・・
- 契約打ち切りのピンチ！

- 千人雇用センターとの連携！

- 練習させてもらえるように依頼！



その他(事例)

- 約10年間ひきこもっている兄弟
- 高齢者姉妹(実母と認知症の叔母)と暮らす50代無職の息子
- 数百万円の債務を抱えている20代の夫婦
- 親の年金で生活、40代の息子は無職
- 母が就労するため小学生(1年・3年)の子どもをアパートに残さざるをえない母子家庭
- 地域が目がこわい、相談相手がいない等 など





総社市学習等支援教室「ワンステップ」

「貧困の連鎖」を防止

- ①子どもたちの居場所づくり
- ②学習の機会を提供
- ③将来へのきっかけづくり

★生活困窮家庭の中学生を対象に
岡山大学生による学習等支援を行う。

■岡山大学

(実践型教育科目 後期2単位)

「地域社会貢献型学習支援活動」

■毎週 火・金曜日

19:00～20:30



【中学生のみなさん】 平成28年10月11日 スタート!

総社市学習等支援教室

ワンステップ!

ご参加ください!!

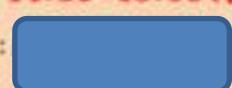
大学生といっしょに!
楽しく! 勉強しませんか!?
みなさんの悩みや相談など
いろんな話をしましょう!



◆サポーター：岡山大学 大学生

◆日 時：毎週 **火・金曜日**
19:00～20:30

◆第1回目 **10月11日(土)**
14:30～16:00 (予定)

◆場 所： 

◆持ち物：筆記用具、教科書、宿題、お茶など
※国語・数学・英語を基本とします。

参加 無料

<お問い合わせ>
社会福祉法人 総社市社会福祉協議会
総社市学習等支援教室 ワンステップ
電話：0866-92-8374 Fax：0866-92-8284



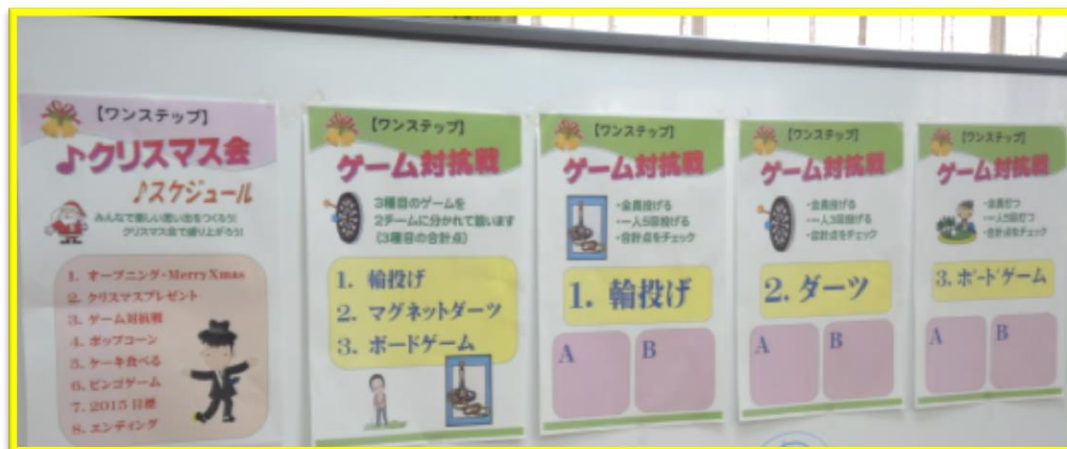
「ワンステップ」クリスマス会①



まずは！乾杯～！



クリスマス会 プログラム！



【ワンステップの皆さん】

♪クリスマス会

ご参加ください！



みんなで楽しい思い出をつくろう！
クリスマス会で盛り上がりましょう！

◆日時：12月24日（水）
15:30～17:30

参加
無料

◆会場：



- ゲームで楽しもう！
- ケーキを食べよう！
- ポップコーンをつくろう！ など

（申込み）★12月19日（金）までにご連絡ください！

＜お問い合わせ＞

社会福祉法人 総社市社会福祉協議会
総社市学習等支援教室 ワンステップ
電話：0866-92-8374 Fax：0866-92-8284



総社市学習等支援教室「ワンステップ」

【平成26年度の実績】

【期間：H26.10.11～H27.3.27】

【回数：35回】

- 実施①：25回（H26.10.11～H27.2.14）
岡山大学／実践型教育科目
- 実施②：10回（H27.1.20～H27.3.27）
岡山大学生の学習ボランティア

【出席状況】

- 中学生：8人（平均：5.6人）
※全て参加している中学生（4人）
- 大学生：13人（平均：5.2人）



【中学生の声】

- ・最初は不安だったけど、今は楽しい
- ・宿題をするようになった（家ではやらない）
- ・成績が120位から80位にあがった
- ・調理師になってみたい
- ・大学に行ってみたい
- ・休憩の時間やクリスマス会が楽しかった など

【大学生の声】

- ・表情が柔らかくなった
- ・声が大きくなった（質問が増えた）
- ・辞書を活用して調べる習慣ができつつある
- ・学習以外の相談もある（部活や人間関係など）
- ・教えることや伝えることの難しさを感じている



【保護者の声】

- ・笑顔が多くなった
- ・毎回楽しみにしている（参加して良かった）
- ・成績があがっている など



自立への第一歩！



■就労:8人

6人(市内企業)／2人(就労継続支援A型)

■地域との関係づくり

- ⇒福祉委員が誕生(6人)
- ⇒民生委員児童委員が誕生(欠員の地区)
- ⇒町内ミニケア会議の定期開催
- ⇒欠縁関係から血縁関係へ(家族のつながり)

■室内から屋外へ(ひきこもり):4人

■福祉サービスの導入:5人

- ⇒小規模多機能型居宅介護事業所の利用、ヘルパーの利用
- ⇒成年後見制度の利用申し立て、公的年金申請

■生活環境の改善 など

★学習等支援教室「ワンステップ」 (H26.10.11～H27.1.16現在)

- ⇒開催回数:25回／平均参加者:5.6人(中学生)／5.2人(大学生)



今回の取り組みを通じて・・・

①行政との関係

- ・事業への理解（話し合いの場）
- ・理解が深まれば連携もスムーズ



②社協の意識統一

- ・横断で総合的な相談窓口の機能を活かす（センター間の連携）
- ・地域福祉との連携

③相談者との信頼関係

- ・すぐに一緒に動いてくれた！
- ・しっかり話を聞くことから！（安心感をどれだけ持てるか）
- ・どれだけ寄り添えるか！

④関係機関との連携・ネットワーク

- ・お互いの利点を認め合う（相談できる関係）
- ・一緒に考えて！一緒に動く！

⑤支援に必要な社会資源やアイテム

- ・非常食やリクルートスーツ、生活用品
- ・新たな社会資源やネットワークを構築する！



今後の課題と目標・・・

①ひきこもりの方への支援

- ・視察や実態調査
- ・民生委員、福祉委員との連携／行政との協議

②中間的就労の研究・開拓

- ・居場所／就労の場づくり
- ・シェルター機能
- ・地域とのつながりを構築する場



③関係機関との連携・ネットワーク

- ・支援ネットワークの構築「生活困窮支援センター協議会（仮称）の設置」
- ・各機関の特性を活かす→支援の幅が広がる！（支援調整会議の開催）
- ・新たな社会資源、制度（仕組み）の開拓や多様な課題に対応！

＜目標＞ 生活困窮者支援を通じた地域づくり

- ・排除しない地域づくり

無縁社会から創縁社会へ

- ・地域包括ケアシステムの構築



STOP! 貧困「みんなで考えたい」

Stop! 貧困

平成26年7月1日開設



「寄り添い・伴走型の支援」

あなたの声に寄り添い
あなたに合った出口（問題解決）と一緒に探します！

「仕事」「家計」「生活」

「失業してなかなか次の仕事が決まらない」
「仕事が長続きしない」
「家計管理がうまくできないため、生活が苦しい」
「周りに頼れる人がいない」
「家族がひきこもっていて心配」…など

不安や困りごとを抱えているあなたの声に寄り
添い、問題の解決方法を一緒に考え、あなたにあ
った制度やサービス・関係機関等を探しながら解
決のお手伝いをします。

★物資の寄付にご協力ください

- ◆食料（賞味期限内のもの）
お米、缶詰、インスタント食品など
- ◆衣類
就職活動のためのスーツ、学生服
（クリーニング済みのもの）など
- ◆日用品（新品のもの）
タオル、調理道具、学用品など
- ◆電気製品
冷蔵庫、液晶テレビ、洗濯機、扇風機など
- ◆官製はがき・切手（未使用のもの）
※保管できるかどうかの状況確認がありますので、
事前にご相談ください。



＜ご相談＞

時間：月曜日から金曜日
(8:30～17:15)

土・日・祝日休み

場所：総社市総合福祉センター



★ご寄付いただいたものは、生活困窮者支援のために
有効に活用させていただきます。

【お問い合わせ：総社市生活困窮支援センター 電話 0866-92-8374】

「総社市生活困窮支援センター」開設

平成27年度から、経済的等生活困窮に陥りそうな方や社会的に
孤立する恐れのある方等を支援するため、「生活困窮者自立支援
法」が施行されます。

総社市社会福祉協議会では、制度の施行を前に、総社市から生
活困窮者自立促進支援モデル事業を受託し、生活困窮者の自立相
談支援体制を確立するため、7月1日、総合福祉センター内に「総
社市生活困窮支援センター」を開設しました。

制度の狭間にいる方への新たな支援

現在の日本の「生活保護受給者」は216万人であり、平成23
年度に過去最高を更新して以降増加傾向が続いています。

また、平均的な所得の半分を下回る世帯で暮らす18歳未満の
子どもの割合を示す「子どもの貧困率」が2012年時点で
16.3%と過去最悪を更新しました。

今、日本全体に貧困が広がり、地域との繋がりに欠け孤立する
方々への本格的な支援が必要性和なっています。

そこで、総社市では「生活困窮支援センター」を設置してその
支援を本格的に取り組むことにしました。すでに、数名の方を対
象にして支援が始まりました。高齢の母親と暮らすBさん。数十
年ひきこもり、地域とは完全に孤立した生活をされていました。

しかし、母親の体調が悪化したことから支援が始まりました。
生活困窮支援センターの自立相談支援員や社会福祉協議会の福祉
活動専門員、地域包括支援センターの社会福祉士、市の保健師が
チームを組んで粘り強いアプローチを繰り返しました。

その結果、室内もかなり片付きホームヘルパーも利用されるよ
うになり、生活の改善が見られています。

今後は、地域との繋がりを改めて作り直し地域生活の復帰をめ
ざしています。

地域生活を取り戻してこそ、社会福祉協議会の支援です。これ
からも、社会福祉協議会の支援が問われています。

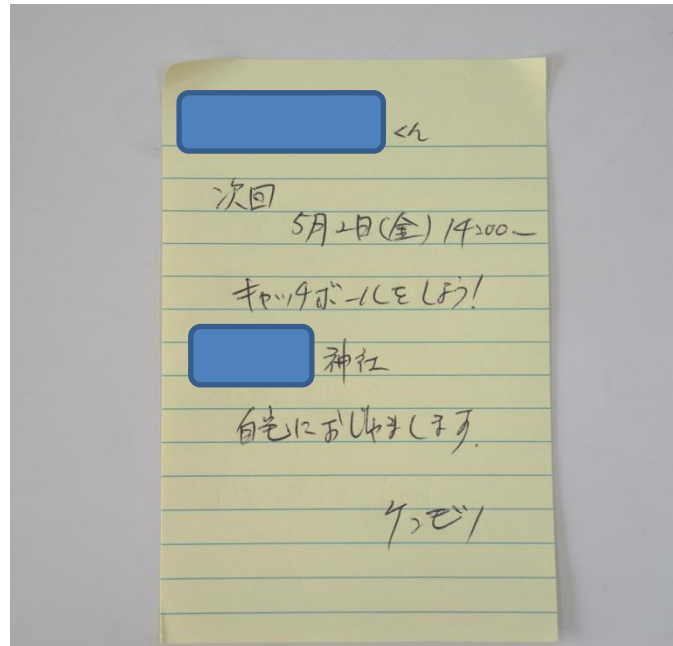
※総社市社協だより（2014／9月号）
事務局長トピックスより





心でつながる！
キャッチボール！

人が変わる・きっかけ！“心に寄り添う”



心が変われば行動が変わる。
行動が変われば習慣が変わる。
習慣が変われば人格が変わる。
人格が変われば運命が変わる。
運命が変われば人生が変わる。